

第一次 EEC 加盟申請の失敗とイギリスの対ヨーロッパ政策再検討過程 ——マクミラン保守党政権の対応, 1963 年(2)

益 田 実

目 次

- はじめに 第一次加盟申請失敗後の政策再編過程：イギリスのヨーロッパ統合政策史研究における空白
- 第 1 章 危機の予感, 62 年 12 月—63 年 1 月
- 第 2 章 ドゴールの記者会見から交渉中断まで, 63 年 1 月 14 日—1 月 29 日 (以上, 法経論叢第 25 巻 1 号掲載)
- 第 3 章 交渉決裂から, ポスト・ブリュッセル委員会による閣僚レベルでの基本方針の確定まで, 63 年 1 月末から 3 月下旬 (以上本号掲載)
- 第 4 章 基本方針合意後の対 EEC 政策の遂行, 63 年 3 月下旬から 7 月中旬まで
- 第 5 章 WEU 閣僚理事会開催に向けて, 63 年 7 月下旬から 10 月中旬まで
- むすび ダグラス=ヒューム政権の誕生とその当初の対 EEC 政策

第 3 章 交渉決裂から, ポスト・ブリュッセル委員会による閣僚レベルでの基本方針の確定まで, 63 年 1 月末から 3 月下旬

交渉決裂後まず閣僚達が議論したのは, EEC 加盟を前提にしてきた

経済政策全般をいかなる形で再検討するかという問題であった。

モードリングは交渉決裂直後 30 日朝の時点で、28 日にマクミランがアームストロング報告について述べたコメントを念頭に、EEC 市場に頼らない貿易拡大、アメリカ、コモンウェルスとの協力への関心を示すコメントを大蔵官僚に述べていた。二国間協定及び大量買い付けによるコモンウェルス貿易増大、アメリカ=イギリス間での 6 カ国が扱っていない商品についての関税削減、EFTA 関税削減の加速、輸出インセンティブ、EEC への投資拡大防止策、こうした可能性を検討し、同時にイギリスの国内農業政策を再検討する必要があるというのが、モードリングの認識であった⁽¹⁾。しかし以後の官僚レベルでの検討作業ではこうした可能性の大半が、究極的な EEC 加盟を目指すという長期的政策目標とは両立し難いものとして排除されていくことになった。

31 日には交渉決裂後初めて閣議でこの問題が議論された。まずマクミランから、新たな経済政策の目標は、コモンウェルス、EFTA、5 カ国と協力して国際貿易自由化を進展することであるとの基本方針が示された。議論で示されたのは、コモンウェルスは単一の経済単位として扱える存在ではなく、対コモンウェルス貿易拡大には二国間協議が必要である、イギリス経済強化にはむしろ保護削減が必要であり、EEC からの輸入への規制拡大は間違いであるといった声であった。この場では首相と関係閣僚がブリュッセル交渉後の新たな経済政策についてさらに検討することのみが合意された⁽²⁾。この議論からは、開放的国際貿易体制構築というイギリス通商政策の年来の原則を維持すべきとの判断はほぼ共有されていたが、6 カ国、コモンウェルスそれぞれとの距離をどのようにとるか閣僚間である程度の差異が存在したことがうかがえる。

通商面での 6 カ国への報復と受け取られかねない対応は、マクミランとモードリングが、一時的に関心を示すにとどまったが、外交・安全保障面での報復的対応の可能性についてはマクミランが相当の間これを念

頭におき続けた。

27日の時点でマクミランは外相ヒュームに対し、交渉決裂の際にはWEU条約に定められた50年間のドイツ駐留キャンセルの可能性を検討するよう指示していた。58年秋、FTA交渉が挫折しつつあった際にもマクミランは同様の提案をおこない、外務省の反対でこれをあきらめていた。その時の提案の理由は経済協力を拒否する大陸諸国に対してイギリスが多大の負担のもとで防衛義務を負う必要はないという感情的反発であったが⁽³⁾、今回も同じであった。54年にイギリスが大陸駐留コミットメントを約束した理由はフランスに対してドイツ再軍備を受け入れ可能にするためであったが、今や独仏和解は成立しエリゼ条約まで調印され、駐留継続の必要はないのではないかとマクミランはヒュームに書き送っていた。これは明らかにドゴールとアデナウアーへの意趣返しからの発想であった⁽⁴⁾。

外務省からは直ちに、ドゴールによるEEC加盟拒否は駐留廃止を正当化する法的根拠とならないとの外務省法律顧問の見解が寄せられると同時に、兵力引き上げは5ヵ国と合衆国がイギリスに寄せる支持をも喪失させる危険があるとの見解が伝えられた⁽⁵⁾。この後もマクミランはWEU解体の法的可能性を検討することを要求したが、2月半ば外相から、法務長官及び法務次官の見解として、現時点でブリュッセル条約第2議定書第6条によるドイツ駐留義務の破棄を正当化する状況は存在しないとの回答が伝えられ、WEUを舞台にした報復的措置の可能性をあきらめたかに見えた⁽⁶⁾。しかし、後述するように3月下旬フランス政府が、WEU閣僚会合開催拒否の姿勢を示した際マクミランは再度、フランスの対応を理由にWEU条約を破棄する可能性を検討するよう外務省に指示を下した。これに対しても外務省からは、条約には閣僚会合開催手続きに定まった条項はなく、開催を望まなかったからといって条約不履行とは解釈し難いとの回答が寄せられ、ようやく、マクミランはあき

論 説

らめた⁷⁾。ドイツ駐留兵力の撤退が現実的可能性でないことは首相以外の政府関係者には当然理解されていたと思われるし、マクミラン自身がどれほど真剣にこの可能性を考慮したのかは不明である。ただ58年に一度賢明でないとして否定された対応を再度、前回よりも執拗に検討させたという事実は、EEC加盟失敗がマクミラン個人にいかに大きな失望を与えるものであったかを示す一つの証拠とはなるだろう。そして、58年秋の失望がその後、FTA提案以上に積極的な対ヨーロッパ政策再検討を促す効果を持ったのに対して、61年1月の挫折は、首相からそうした積極的意欲を奪ったようであった。2月上旬マクミランはケネディに対してEEC加盟問題についての英米首脳会談開催を打診したがこれも実現せず⁸⁾、その後の対EEC政策検討過程で首相による積極的貢献は見られなくなっていった。

2

加盟交渉決裂に至る過程でイギリス政府が外交的接触を持ったのは、アメリカ及び6カ国にほぼ限定されていた。イギリスのEEC加盟の成否により直接の影響を受ける他の関係国、すなわちコモンウェルス及びEFTA諸国はこの間背景に追いやられていた。

28日マクミランは、交渉決裂時に送付するコモンウェルス首脳宛書簡作成を指示し、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド首相達には、性急な反応をしないよう各国駐在弁務官を通じて要請することも指示された⁹⁾。決裂直後29日夜にはブリュッセルで、ヒースとサンズからコモンウェルス諸国代表に対し、交渉中断に至った経緯が説明された。ヒースは5カ国との会談内容を説明し、5カ国との接触維持により将来の加盟は促進されるだろうとの期待を述べた。サンズは、加盟が実現できていればコモンウェルス諸国とEECの間で有益な協力関係形成が可能であったと述べ、交渉中断は遺憾であるが加盟に至るプロセスは継続する

と明言した⁽¹⁰⁾。

交渉決裂後のコモンウェルス首脳との最初の接触はカナダ首相ディーフェンベーカー (John Diefenbaker) からマクミランへの電話であった。ディーフェンベーカーはコモンウェルスとの協議なしでイギリスが新たな政策を提示することは回避してほしいとの希望を述べ、62年9月のコモンウェルス首脳会議で自身が提示した GATT におけるコモンウェルス、日米、その他諸国の会合開催とコモンウェルス自由貿易地帯構想への関心を示した。これに対してマクミランはノンコミットルな姿勢しかとらず、6カ国との交渉はなお継続しておりカナダが現時点でイニシアチブを取ることがないようにとの希望を述べた⁽¹¹⁾。アームストロング報告について28日付モードリング宛文書で示唆されていたコモンウェルスとの関係再強化の可能性は、結局対外的に示されることはなかった。

30日、交渉決裂後早々にコモンウェルス諸国首脳に送られたマクミラン書簡は、今回の失敗は破滅的事態ではないと強気の姿勢を示していた。EEC 加盟を是とする政治的・経済的理由に変化はなく、むしろフランスの対応により加盟すべきとの議論は強化されたと述べられていたが、今後の政策については決定次第連絡するとしかされていなかった⁽¹²⁾。

この後示された主要コモンウェルス諸国からの反応では、ディーフェンベーカーのみが積極的な姿勢であった。彼は事前協議なしでの新イニシアチブ提示はおこなわないと約束し、コモンウェルス自由貿易地帯も現実的ではないとの考えも示したが、現時点では全ての可能性が除外されるべきではないとも述べていた。彼はまた2月末訪英して対応を協議したいとの希望も示していたが、2月上旬カナダ国内へのアメリカ核弾頭配備問題をめぐり議会の信任を失い、この会談は実現することはなかった⁽¹³⁾。

オーストラリア、ニュージーランド両国首脳との加盟交渉中断への対応は比較的冷静なものであった。現段階でコモンウェルス首脳会議を開催

することは、EEC加盟とコモンウェルス協力が対立する選択肢である印象を与えかねないので回避すべきとの31日付マクミランの追加書簡に両国首脳は賛意を示した⁽¹⁴⁾。

2月7日にはモードリング、サンズ、ヒース、ソームズ、マクミランにより将来の対コモンウェルス政策を協議する会合が持たれた。サンズの提案により閣僚達は、春または夏、ケネディラウンド予備交渉のためのジュネーブでのGATT閣僚会合の際、ロンドンでコモンウェルス通商閣僚によるコモンウェルス経済諮問理事会(the Commonwealth Economic Consultative Council)を開催すべきであると合意した。これは議会において、コモンウェルスとの協議は充分におこなわれていると主張するための国内政治的理由からの判断であった。この時点ですでにコモンウェルスを対象として新たな通商イニシアチブを検討するという可能性は主要閣僚達からは排除されていたわけである⁽¹⁵⁾。コモンウェルスとの関係で実際に協議する必要があるのはEEC加盟が不可能になったことを受けた個々の構成国との二国間通商協議であるというのが閣僚達の合意であり、コモンウェルス首脳側もこれに同意していた⁽¹⁶⁾。

一方EFTA諸国との間では、31日訪英したデンマーク首相とマクミラン、ヒースの間で会談がもたれた。この場でデンマーク側は、イギリス及び他のEFTA諸国と連携してEEC加盟を目指す姿勢に変化はなく、EECとの協力関係形成には関心がないとの姿勢を伝えていた。これに対してヒースからも、EFTA諸国が個々にEECと協力関係を形成しても、EECによる通商上の決定に影響力を及ぼすことはできないので、利益は薄いとの判断が示された。ヒースはまた6ヵ国内で協力関係の条件について合意を得ることは困難であろうし、EEC=EFTAによる工業製品関税同盟といった包括的合意にはフランスが反対するだろうと述べていた。この場で多少とも前向きな対応の可能性としてあげられたのは、2月のEFTA閣僚会合でEECと足並みを揃えた関税削減を議論

すること、OECD においてヨーロッパと大西洋の経済関係を扱う機能強化を検討することの二つだけであった⁽¹⁷⁾。

3

2月初めにマクミランとヒースがイタリアを訪問し、交渉決裂後初めて EEC 諸国とイギリスの公式閣僚会談がおこなわれた。訪問前に外務省が作成したブリーフは、EEC 加盟の必要性に変化はなく、ドゴールの考える「第三勢力」的ヨーロッパに対し、5カ国は EEC 内で、イギリスは NATO において抵抗する必要があると提言していただけであったが⁽¹⁸⁾、イタリア首相、外相はより具体的対応を提言した。すなわち、WEU において6カ国とイギリスが、防衛・政治問題の協議をおこなうという可能性であり、当時議長国であったドイツにより首脳/外相による WEU 閣僚会合開催を提案すべきというものであった。この提案に対するヒースとマクミランの反応は2月1日の会談では慎重なものにとどまった。しかし翌日再度イタリア側がこの可能性を提示した際には積極的な反応が示され、マクミランとヒースは、オランダ、ベルギーとも協議してドイツに WEU 外相会合開催を提案すべきであると同意した。ただし軍事問題については NATO での MLF 構想の協議が必要であり、経済問題では5カ国とイギリスの間で EEC 駐在イギリス代表部強化、英伊経済委員会、英独経済委員会などの二国間協議を活用すべきであるともされていた⁽¹⁹⁾。帰国後5日にオランダ駐英大使との会談でヒースがイタリアとの会談内容を報告したが、オランダ側は WEU 閣僚会合には消極的であった。オランダ大使は、ハーグとボンではすでに結束してフランスに対抗する熱意は冷めていると述べ、2月1日にモードリングがおこなった演説に触れ、イギリスはヨーロッパ域外との貿易を増大し安価な食品価格維持を求めると判断されていると指摘した⁽²⁰⁾。

蔵相演説の内容は、ブリュッセル交渉決裂を受けてのイギリスの国内

経済政策として、消費者需要増大・効果的所得政策・競争刺激策・産業構造近代化・業界再編・労働力移動促進・再訓練・輸出インセンティブなどが必要であると指摘するものであった。しかしこれはあくまでも国内経済政策に限定した発言であった。実際にはモードリングはこの時点で、EECと「何らかの associate membership」について合意を得る可能性を排除しておらず、「いかなる形式の協力関係も不可能とする外務省の見解を安易に受け入れるべきではない」との姿勢を大蔵省内で示していた⁽²¹⁾。

6日にはヒースから主要ヨーロッパ諸国諸機関駐在大使宛に新たな対ヨーロッパ政策の外務省構想が伝えられ、これに対する評価が要請された。ここではドゴールに対抗し、フランスを孤立化する主要な舞台はNATOとされ、MLF構想推進に積極的役割を果たし、同時に政治協議の活性化を求めることが提案されていた。5ヵ国との関係では、通常の外交チャンネル、二国間ベースに加えて既存の機構を利用する必要があるとされたが、その候補とされたのはWEUでの政治協議拡大であった。イタリア提案に沿って、WEU閣僚理事会を3月初頭に開催し、年四回の定期閣僚会合、WEU諸国駐NATO代表定期会合、WEU諸国駐EEC代表定期会合、「大西洋とヨーロッパの協力原則の宣言」といった事項を議論することが提案されていた。経済協力ではなく政治協力を促進することが重要であるというのが外務省の認識であった⁽²²⁾。12日には議会においてヒースが、現時点ではEEC完全加盟にかわる具体的提案は存在しないしイギリスから提案をする予定もないが、単なる経済協力関係構築では不十分であるとの認識を公にした。また考慮に値する提案の満たすべき条件として、6ヵ国全体による提案であること、再度の長期交渉を意味しないこと、全当事者が誠意を持って交渉に臨まねばならないこと、の三条件が明示された⁽²³⁾。

ヒースは、具体的協力関係提案は存在しないと議会で答弁していたが、

実はこの時点ですでに、英 = EEC 工業製品関税同盟形成と WEU の活用を組み合わせたスパークによる構想が非公式に検討されていた。詳細は後述するが、その前に、1 月末から 2 月上旬までの官僚レベルでの検討作業に触れておく必要がある。2 月初めの英伊首脳会談後、大蔵省内では最終目標としては EEC 加盟を維持すべきであり、イギリス抜きで共同体が発展を遂げ加盟が困難になるのを回避するため、少なくとも 5 カ国との間で緊密な接触を維持しなくてはならないとの合意が得られていた。接触の手段と内容について大蔵省では、二国間もしくはブリュッセルでの常駐代表間接触を利用して、共同体全体もしくは各加盟国と個別に協定を結び、共同体が採用するであろう労働力自由移動、資本移動、社会補償、平等賃金などの諸規則との相互性を確保することが必要であるとされていた。相互協定の交渉はそれ自体が「ドアに足を挟んでおく」効果を持つと考えられたのである⁽²⁴⁾。この大蔵省の発想に加え外務省ではイタリア提案を受け、WEU を利用して 6 カ国ないし 5 カ国と継続的な政治協議をおこなうという発想が支持されるようになった。2 月 7 日ヒースと外務、大蔵、コモンウェルス関係、農水食糧各省次官代理級官僚による会談でこうした方針が確認され、5 カ国との協議は、NATO、WEU、二国間及び駐 EEC 代表部間の三つのルートを通じ、それぞれ防衛、政治、経済面で推進するとの大まかな合意が得られた⁽²⁵⁾。この間マクミラン自身は特段の発言を残していなかったが、首相秘書官ド・ズルエタからは 4 日付で、同様の WEU での政治的協議と二国間レベルでの経済的協議を提言する文書が示されていた⁽²⁶⁾。

経済面での実務的協力については、2 月 6 日、加盟交渉において各省間の調整をおこなってきた共同市場交渉（官僚）委員会（Common Market Negotiations (Official) Committee: CMN(O)）で EEC との制度調整の可能性を各省が検討することが決定された。翌 7 日には先のアームストロング報告を下敷きにする形で、「ブリュッセル後の経済政

論 説

策」と題する報告が官僚レベルの経済政策（全般）委員会（Economic Steering (General) Committee: ES(G)）で承認され、蔵相名で閣僚レベルの経済政策委員会（Economic Policy Committee: EPC）に提出された。ES(G)報告の結論は、国内では生産性向上と経済成長を目指す、対外的には最大限の貿易自由化拡大を目指すべく具体方法を考える、農業政策の基本的見直しをすべきである、といったアームストロング報告で指摘されていた全般的経済政策再検討に加え、将来のEEC加盟を念頭においた経済政策を検討し、少なくとも加盟がより困難にならないよう共同体の政策に影響を与える可能性を探るよう提言するものであった。この報告は2月13日EPCで承認された⁽²⁷⁾。

4

こうしてイギリス政府内での議論が進行する過程で浮上し対応が必要となったのが、先に触れたスパークによるイギリス=EEC工業製品関税同盟形成とWEUの活用を組み合わせた構想、通称スパーク・プランであった。先のイタリア政府との会談後、ドイツからもWEU活用の可能性を支持する姿勢が伝えられたが、具体的提案には至っていなかった⁽²⁸⁾。その中で2月5日まず駐ベルギーイギリス大使に対して非公式な形で、政治面ではWEUを利用しフランスが参加を拒絶した場合でも5カ国とイギリスの間でフーシェ・プラン形式の政治協力合意を形成する、また通常兵器分野での英=5カ国軍事協力も促進する、経済的にはブリュッセル交渉の合意内容を基礎に工業製品についての英=EEC関税同盟の可能性も検討するという構想が伝えられた⁽²⁹⁾。外務省は非公式な打診を受けた時点で、スパーク構想はイギリスの政治目的達成には効果がなく、EEC完全加盟以下の取り決めでコモンウェルスに経済的損失を受け入れさせるのも困難であろうと否定的評価を下していた。ただし5カ国のフランスに対する結束維持に必要であれば提案自体は歓迎す

べきであり、短期間で合意しなくてはならないとの条件を明示した上でなら検討してもよいとヒュームには提言されていた⁽³⁰⁾。

7日、ブリュッセルを訪問したヒュームとの会談でスパークはこの構想を正式に提示し、詳細を記した文書を手交した。スパークによれば英 = EEC 工業製品関税同盟は「加盟でも協力関係でもない経済的取り決め」であり、WEU 活用と対立せず、政治的機構形成にも至り得る可能性を持つものであった。彼はこの提案をオランダと協議してベネルクス提案とし、イギリスの同意を得た後で独伊に提示し、最後にフランスに提示するという予定を披露した。ヒュームはこの場では外務省の提言に沿って提案を歓迎すると同時に、政治的要素と早期合意が必要であると述べた。彼はまた EFTA 諸国の扱いが問題になり得るとも指摘した。会談後の報告でヒュームは、WEU と NATO での政治的軍事的協議の前進を妨げず、交渉が長引かないと確実視できれば検討すべきであろうと述べていた。フランスにとって関税同盟参加の魅力は乏しいであろうが、イギリスと5カ国が賛同する提案を拒否した場合フランスはさらに孤立することになり、提案する価値はあるというのが彼の判断であった⁽³¹⁾。

スパーク提案の正式受領後、イギリスは5カ国の同構想への姿勢について情報を収集しながら対応を検討した。ヒース及び外務省幹部は提案には否定的な姿勢であった。ヒースは再度の長期間に及び得る交渉を忌避し、関税同盟提案を拒絶してフランスの孤立が顕著になってもイギリスにとって大きな利益はないとの姿勢を示した。官僚達も EFTA 諸国との関係、フランスの反対により失敗した場合でもイギリスに責任が押し付けられる危険を懸念した。ともあれイギリスとベルギーの間で官僚協議をおこないスパーク提案の詳細を検討する、可能であれば提案を改善し拡張することが必要であると外務省内では判断された。ベルギー側も官僚協議には積極的であり、ロンドンへの官僚団派遣を提案してきた

論 説

が、外務省はイギリス側がベルギーを訪問して検討する方が注目を浴びることがなく望ましいと判断した⁽³²⁾。

スパーク提案は8日次官補級官僚による省間会議でも検討されたが、他省庁は外務省より提案に好意的であり、工業製品限定の関税同盟は農業問題の不利益なしで経済的利益をもたらすので検討に値するのではないかとの意見が示された。交渉が長引いてはならないこと、EFTA諸国との扱いが困難であることといった問題は認識されたが、「技術的」には反対すべき理由はないというのが会議に参加した大蔵省代表の意見であり、会議の結論もベルギー側と真剣な協議をおこなうべきというものであった⁽³³⁾。11日には蔵相モードリングもヒースに書簡を送り、スパーク提案について「私としてはこの線に沿ったものが実現できれば我々に取って多大な利益があると考え」と述べ、提案は「真剣に検討されるべきである」と主張していた⁽³⁴⁾。同日マクミランからスパーク提案を説明する文書の提供が外務省に要請されたが、彼がこの提案に対して示した反応は記録には残されておらず不明である。ともかく、結果的に彼のスパーク構想への姿勢は官僚の提言を通じて形成されたヒースの判断を追認するものとなった⁽³⁵⁾。

11日にはブリュッセルで外務省及び大蔵省官僚がベルギー側と協議することが合意され、オランダ政府代表もオブザーバーとして同席することとなった⁽³⁶⁾。ベルギー側との協議直前の段階でディクソンは関税同盟提案に強く反対し、拒否姿勢を明示すべきであると進言していたが、駐ベルギー、オランダ両大使からは5カ国側からのイニシアチブを直ちに否定すべきではないとの意見が示されていた⁽³⁷⁾。

14日ブリュッセルでおこなわれた協議でベルギー側は、オランダと協議して若干の修正を加えたスパーク・プランを説明した。提案の目的はイギリスとヨーロッパの乖離を防ぎ、ブリュッセル交渉の成果を最大限活用し、イギリスの加盟に至る基盤を構築することであるとされ、フラ

ンスによる EEC 支配を回避するにはイギリスの支援だけでなくイギリスの指導が必要であるとベルギー側は述べていた。提案の詳細は、WEU の利用と限定的関税同盟形成を組み合わせたものであり、まず WEU 閣僚会合を開催し、WEU の政治的活性化と機能拡張、農業関係規則も含む工業製品関税同盟結成を謳う「厳肅なる宣言」(a “Solemn Declaration”) を発する、フランスがこれを拒否する場合、ローマ条約に配慮しながらイギリスと 5 カ国の政治的統一促進に努める、その場合は WEU でなく、新たな政治機構、二国間合意、アドホックな協議を利用するというものであった。イギリスと 5 カ国が軍事的要素も含む強固な政治取り決めへの意思を示すことが、フランスに合意を促す効果を持つというのがベルギー側の観測であった。これに対してイギリス側は、12 日のヒース演説で示された条件が守られねばならないと繰り返し、ベルギー案の原則承認はできないが、ベルギーが他の共同体諸国と協議をおこなうことには同意した。またフランス抜きで政治的・軍事的協議が NATO 分裂をもたらすものであってはならないとも指摘された。議論になったのは農業の扱いであった。農業についてベルギー側は、農業の完全排除はオランダとフランスに受け入れ難いであろうと述べ、オランダ政府オブザーバーも、イギリスが段階的に共同体農産物をコモンウェルス農産物と同様に扱うと約束することが最低限必要であると主張した。これに対してイギリス側は、コモンウェルスとの事前合意が必要であると指摘した⁽³⁸⁾。

ブリュッセルでの協議後、21 日にはロンドンでオランダとの官僚級協議がおこなわれ、オランダ側は、イギリス農業政策と共同体農業政策の漸進的一致を強く求めた。正式な回答は 2 月末以降ヒースがブリュッセルを訪問してスパーク、ルンスに直接伝えるものとされたが、2 月下旬までにモードリングも含め、関税同盟形成に関心を示していた一部官僚・閣僚にも、農業要素の増大によりスパーク・プランの経済的要素は

受け入れ困難であるとの見方が広がっていった⁽³⁹⁾。その結果外務省と大蔵省では、オランダとベルギーに対して提案の経済部分を早期に断念させねばならないと認識されるに至った。しかし5カ国がフランスに対抗して結束を維持することも必要であり、スパーク・プラン中WEUでの政治協議発展という部分だけを利用すべきであるというのが官僚達の判断となった⁽⁴⁰⁾。この判断は閣僚による正式決定前に外務次官代理フッド(Lord Hood)から駐英オランダ大使に非公式な形で伝えられ、軍事面ではNATO、経済面では二国間もしくはブリュッセル駐在代表間で協議し、政治面でのWEU閣僚協議のみを採用することになるだろうとの姿勢が示された⁽⁴¹⁾。

スパーク提案について外務省内では2月中旬発足したフッドを長とする臨時委員会を中心に対応が検討された。その結論は積極的に支持する価値があるのは政治協力を討議するためのWEU閣僚会合開催のみであるというものであった。WEUの利用については、欧州委員会も賛成しているとの情報が得られていたが、2月下旬時点で具体的にどのような協議をおこなうかは議論されていなかった。まず5カ国との協議体制を構築して、その後でどのような進展が可能か見極めるべきであるというのがフッドの見解であり、次官キャッチャもこれに賛成していた。経済面でも、入国審査制度や英仏海底トンネル計画の協議など実務的な大陸との協力といったアイデアしか示されていなかった。軍事面でも、核戦力問題についてアメリカと事前協議をすませた上で、3月をはじめNATO理事会に外相が参加する方向で調整するという以上の具体的検討は進んでいなかった⁽⁴²⁾。共同体機構への影響力を拡大するため駐ブリュッセル英代表部を強化するという対応は支持されていたが、それについても外務省内部では、あまり大きな成果を期待すべきでないと考えられていた⁽⁴³⁾。

5カ国中最もその対応が重視されていたのはドイツであるが、2月下

旬段階でシュレーダーの姿勢は、WEU 閣僚会合招集の用意はあるが事前に協議内容を明確にしたいというものであり、ベネルクス、イタリアに比して慎重な姿勢であった。またドイツ側からは、駐仏ドイツ大使による非公式打診に対してクープは、限定的関税同盟構築といった暫定的経済取り決めには完全に否定的な反応を示したとの情報ももたらされていた⁽⁴⁴⁾。

2 月半ば以降スパーク・プランへの評価を含めた閣僚宛の全般的対 EEC 政策報告の起草作業が主に大蔵省と外務省により開始された⁽⁴⁵⁾。20 日その第一草稿が作成された段階で文書はヒースに提出され、ヒース司会で関係省庁次官代理級を集めた会合が開催された。報告書草案は最終的に EEC 加盟を目標とすべきとの前提に沿って、共同体は農業政策などで保護主義的傾向を発達させることがあってはならないと指摘するものであったが、そのために具体的にイギリスがどう振る舞うべきかは触れられていなかった。共同体との関係維持の手段としてはブリュッセル駐在代表間の接触強化が望ましいとされていた。スパーク・プランについてはその経済部分は採用できない、政治部分すなわち WEU の活用は可能かもしれないというのが結論であり、閣僚によりこれが承認されればヒースとルンス、スパークの会談が必要になると勧告するものであった⁽⁴⁶⁾。

外務省ではフード委員会が報告書草案の作成に関与し、その際にキャッチャーが示した、以下の検討課題が念頭におかれた。すなわち、ドゴールがイギリス加盟を認めず、70 年代まで政権を維持するという仮定で、共同体から排除されることによりイギリスの勢力と影響力はどれだけ減少するか？ ヨーロッパ問題でどのような役割が果たせるか？ 共同体はどこまでフランスに支配されるか？ 5 ヶ国と「特別な関係」を構築する価値はあるか？ 大西洋アプローチを追求すべきではないか？ ケネディラウンドが部分的にしか成功しない場合、英米加 EFTA によ

論 説

る広範な経済協定締結は可能か？ EEC 解体を画策し新たなヨーロッパ経済政治機構を構築することはイギリスの利益になるか？ 大西洋同盟はいかにして強化し得るか？ OECD を大西洋規模の経済協力のための機構として発展させ得るか？ EFTA を通商機構以上のものに発展させるべきか？ といった問題である⁽⁴⁷⁾。

省間会合においてはキャッチャの見解も説明され、イギリスが70年以降までEECに加盟できない可能性を念頭におくなら6カ国あるいは5カ国との政治協議の意義は薄く大西洋規模ないし5カ国との二国間政治協力の方が重要である、WEU利用は5カ国側のイニシアチブとして提示させるべきであるとの考えが説明された。ヒースはこれに異を唱え、大西洋同盟強化の視点からも、ドゴールによる西ヨーロッパ支配を阻止し、西ヨーロッパを「大西洋パートナーシップの均衡のとれた東方の柱」とするために5カ国との政治協議をリードすべきであるとの姿勢を示した。これまで政治連合への国内の反対を優先してきた結果イギリスは大陸側に自らのヨーロッパ像を受け入れさせることに失敗してきたのであり、いまやイギリス自ら積極的にヨーロッパのアイデンティティ構築を目指すべきである、ヨーロッパもアメリカも現時点で大西洋共同体構築の用意はできていないというのがヒースの見解であった。フッドら同席した外務官僚達はキャッチャ寄りの見解を示したが、大蔵官僚達は、ヒース寄りの意見であり、イギリスが5カ国に対してヨーロッパ規模の政治協力のための指導力を発揮すべきであるとの考えを示した。スパーク・プランについては議論の結果、その経済面は危険が大きすぎ、オランダとベルギーにこれをあきらめさせる必要があると了解されたが、それゆえにこそ政治面での積極姿勢を示さねばならないとヒースは主張し、対ヨーロッパ政策の政治面の議論はなお継続するものとされた⁽⁴⁸⁾。

22日のCMN(O)委員会で閣僚宛報告草案は審議され、いくつか修正

加筆すべき点が指摘された。まず将来の加盟可能性について見解を定めるとともに、完全加盟以外も念頭におき、より広範なヨーロッパ自由貿易システム、共同体・EFTA・アメリカ間の通商協定などの可能性を検討するものとされた。基本的指針としては、共同体とイギリスの政策乖離を回避し可能ならより接近させる、イギリスが一方的に合わせるのではなく共同体を「外向き」にさせる、それが加盟成功失敗いずれの場合でもイギリスの利益になると指摘された。共同体との関係緊密化を妨げる政策は、極めて重要な理由なしで採用すべきではないとされ、共同体の利益に反しない範囲で5カ国からの協力を要請すべきとされた。これら目的達成のため、ブリュッセル駐在代表部強化に加え、6カ国首都での二国間外交接触も強化すること、いずれはフランスとも官僚レベルの接触を回復する必要があることも指摘された。これらの指摘を反映した報告草案を閣僚に提出するとともに、各省庁が共同体との政策調整の可能性について個別に検討することも決定された⁽⁴⁹⁾。

5

2月27日「EECとの交渉終了後の主にヨーロッパにかかわる政治・通商政策問題を考慮する」新たな閣僚委員会、ポスト・ブリュッセル委員会 (Post Brussels: PB) (筆頭相バトラーが長を務め、モードリング、ヒース、ソームズ、サンズらが参加)⁽⁵⁰⁾ が第一会合を開き、前節で触れた閣僚宛報告の一部、特にスパーク・プランの評価に関する部分が議論された。報告書が閣僚に勧告した主な内容は、まず NATO において核戦力協議を積極的にリードし大陸の非核保有国の役割を強調する、3月中旬の NATO 理事会に外相が出席しイギリスのヨーロッパ政策を主張する、イギリスと5カ国の NATO 常駐代表が定期的に会合する、NATO での政治協議活発化も提案する、ついで5カ国との二国間リンクとして英独委員会と英伊委員会を強化し英ベネルクス委員会設置を目

論 説

指す、そしてスパークの工業製品関税同盟提案はあきらめさせるが、WEU 活性化提案については経済面抜きで追求するならば支持し、フランスが参加を拒否する場合5カ国のみと前進する、その際ドイツの参加は不可欠である、というものであった⁽⁵¹⁾。PB 委員会で閣僚達は、スパーク・プランの経済面追求は賢明でないと合意し、スパーク・プランの政治面は検討に値するとも概ね合意した。手順としては、3月はじめにヒースがブリュッセルを訪問してベルギーとオランダにこの考えを伝え、その後でシュレーダーに接触すると決定され、3月末にもWEU 閣僚会合開催が可能ではないかと考えられた。NATO における軍事面での協議はこの時点で具体的決定はなされず、次回以降の会合で検討するものとされた⁽⁵²⁾。

この間、EFTA 諸国との間では、19日開催された閣僚理事会で、より大きなヨーロッパ市場構築を妨げることのない形でのEFTA 強化が合意され、当面は域内関税削減を加速することが合意された。しかしデンマークは域内農業政策調和を要請し、イギリスへのバター輸出拡大を要求するなど、完全な結束が得られた訳ではなかった。またオーストリアはEFTA 諸国の了承を前提としてという条件ではあるが、EEC との協定締結を目指す姿勢を示していた⁽⁵³⁾。

3月5日訪英したスウェーデン首相とヒース、ヒューム、マクミランの会談で、WEU を利用したEEC 諸国との協議継続を求める姿勢が明らかにされ、EFTA は前進すべきであるがEFTA とEEC の貿易戦争を招いてはならない、EFTA は外向きで強いEEC を望むことを示さねばならないとの合意が得られていた。またこの席でマクミランは、ブリュッセル交渉の決裂は「一章の終わりであり一冊の終わりではない」と述べ、加盟が彼にとってもなお究極目標であることは示していた⁽⁵⁴⁾。

PB 委員会第1回会合後、外務省内ではフード委員会により今後の段取りが検討され、3月11日にヒース司会で6カ国及びヨーロッパ各種

国際組織駐在の大使会合を外務省で開催し、対ヨーロッパ政策についての指針を検討することが決定された⁽⁵⁵⁾。

閣僚宛報告草案を検討した後 3 月 4 日、CMN(O) 委員会を廃して対 EEC 政策に加え対外経済政策一般を検討する対外経済関係委員会 (External Economic Relations Committee: EER) が設置され、閣僚・官僚双方のレベルで加盟交渉「後」の検討体制が整った。EER 委員会は 5 日第 1 回会合を開き、先の閣僚報告草案のうち PB 委員会にすでに提出されたものを除く部分の修正版を審議し、ES(G) 委員会に対して「将来の対 EEC 経済関係」と題する報告を提出した⁽⁵⁶⁾。

この間、ドイツとの間で官僚レベルの意見交換も進められた。2 月 28 日ボンで英独経済委員会が開かれ、そこに参加したイギリス政府官僚(外務次官代理ライリー、大蔵次官代理フランス (A. W. France)) と独外務省次官代理級幹部が会談し、スパーク提案を含むイギリス = 6 カ国協議体制について意見交換がおこなわれた。さらに 2 月末から 3 月初め、スチールに代わり新たに着任した駐独大使ロバーツ (Sir Frank Roberts) と独外務省高官の間でもこの問題について接触が持たれ、ドイツ政府の意向が確認された⁽⁵⁷⁾。

一連の会合でドイツ側は、政治協力のための WEU 活用に好意的姿勢を示したが、3 月中の閣僚会合開催は困難ではないかとの見方であった。シュレーダーを含め独外務省は、フランスが WEU 閣僚会合参加を拒否した場合 5 カ国とイギリスの協議を進めるべきではないとの姿勢であり、まずは 3 月 9 日ボンで予定されている独外務省幹部と仏外務省幹部の会談でフランス側の姿勢を確認することが先決であるとイギリス側に伝えられた。経済面ではブリュッセルでの多国間接触維持が望ましいというのが独外務省の姿勢であり、EEC 常駐代表間の接触増大が必要という点ではイギリスと意見は一致した。この時点で独外務省も、またエアハルトも、何らかの関税同盟形成は好ましいとの見解であった。しか

し、イギリス側が明確に反対したことにより、ドイツ側も関税同盟構想は追求しないとの姿勢を採用した。それでもドイツ側は、何らかの暫定的制度枠組みなしで経済協議継続は困難であるとの姿勢は維持し、交通エネルギー政策統一、WEU 経済理事会設置、ケネディラウンドでの新貿易自由化構想提唱、OECD でのヨーロッパ域内貿易自由化協議、イギリス = ECSC 形式のイギリス = EEC 協力関係などの可能性を例示した。これに対してイギリス側は、OECD 利用や WEU 内の経済問題のための特別委員会設置という構想は歓迎すると述べたが、英 = ECSC 式の協力関係についてはすでに外務省で効果はないと判断されており、支持はしなかった⁽⁵⁸⁾。英 = ECSC 協力関係審議会形式の協力関係を EEC と形成する可能性はこの後、3月末の WEU 閣僚会合開催案をフランスが拒否した後、再度ドイツから提示されたが、やはり効果は薄いとして外務省、大蔵省の検討の結果イギリス政府内で否定された⁽⁵⁹⁾。

3月初めドイツ議会ではエリゼ条約批准のための審議が大詰めにさしかかっており、アデナウアーも参加した上院の審議では、イギリス及び他の希望国の共同市場加盟を通じたヨーロッパの統一、英米6ヵ国間の関税低減を求める議会決議も採択されるなど、イギリスのヨーロッパ参加を求める声が示されていた。しかし新大使ロバーツは、ドイツ国内の親英感情はなお脆弱であり、イギリスが積極的に「よきヨーロッパ人」となる意思を示すことが必要であると報告し、そのためにも真剣に多国間協議実現に向け努力する姿勢を示さねばならないと提言していた⁽⁶⁰⁾。

他方フランスとの関係は以前冷えきったままであった。3月をはじめディクソンは日常的レベルでのフランスとの接触通常化もドゴールの拒否を受け入れたものと解釈される危険があるので最低限にとどめるべきと提言し、マクミランも3月10日時点でヒュームに対し、フランスとの関係で重要な政策については留保の姿勢で臨むよう指示していた⁽⁶¹⁾。

3月5日には、マクミラン、バトラー、ヒューム、モードリング、ヒー

スにより、今後数ヶ月の政治経済双方の対外基本政策を検討する臨時閣僚会合が開催され（官房長官トレンド（Sir Burke Trend）も参加）、この席で 27 日の PB 委員会決定もヒースから説明された。議論では、2 月 12 日のヒース議会演説で示された EEC 諸国との協力条件が再確認され、WEU を活用するという方針も異議なく了承された。他方、WEU とは独立に NATO においてナッソー合意の実現を図るべく MLF 構想の議論をリードする必要性も再確認された。日程としては 3 月上旬のヒースによるブリュッセル訪問で上記方針を伝えるほか、3 月 20 日ヒュームによる NATO 理事会出席、5 月前半ケネディラウンド予備交渉に備えてロンドンで開催予定のコモンウェルス通商閣僚会議が重要なイベントとされ、前者については外相と防相が準備をおこない、後者については、国内農業政策の検討も含めて商相と農相が協議を行うことが決定された⁽⁶²⁾。

6

3 月 6 日ブリュッセルでヒースは、スパーク、ルンスと会談し、WEU 閣僚会合開催に向けての折衝を開始した。会談でヒースはまず長期的にはドゴールへの対抗は NATO の場で追求すべきであると述べ、20 日の NATO 理事会にヒュームが出席してイギリスの考えるヨーロッパの将来像について説明するとの予定を告げた。またヒースは、NATO 核戦力についてイギリスと 5 カ国の NATO 代表が会合を持つことも考慮すべきであると述べた。NATO での協力について具体的合意はこの場で得られなかったが、スパーク・プランへのイギリスの反応についてはほぼ完全な合意が得られた。フランスは関税同盟提案を直ちに拒否せず共同体内の海外領土との協力関係や農業政策での合意促進を条件として求め、それが獲得された後でスパーク提案に対して、5 カ国には拒否しがたいがイギリスには受け入れ不可能な修正提案をおこなうであろう、仮

に交渉できたとして最終的にフランスは再度拒否するだろうといった指摘は受け入れられた。イギリスとの経済的接触の維持、ケネディラウンドや共同体の共通農業政策（Common Agricultural Policy: CAP）についての意見交換を求めるスパークに対してヒースは、WEUでの経済問題協議はフランスに拒否される可能性が高く、二国間委員会（新たに英＝ベネルクス経済委員会を設置）とブリュッセル駐在代表定期会合、各国首都での幹部官僚レベルでの接触によることになるだろうと回答した。他方、WEU 閣僚会合は政治協議に有効であるとヒースは指摘し、ヨーロッパの将来とその大西洋同盟内及び世界での地位について述べる「共通の目的と意図」宣言草案を提示したい、フランスが署名を拒否するならイギリスと5カ国だけでもよいと提案した。3月末までにWEU 閣僚会合を開催すべきであると確認され、議事は「ブリュッセル交渉失敗を受けてのヨーロッパの将来の検討」とすることが合意された。フランスの反対でWEUを利用できない場合は官僚レベル・閣僚レベルでイギリスと5カ国が定期会合を開催すべきであろうとヒースは述べたが、上記の議題であればフランスは拒否しにくいらしいというのがスパーク、ルンスの意見であった⁽⁶³⁾。

ブリュッセルでの英蘭白閣僚会談の内容は直ちに独伊にも伝達され、両国とも合意内容に好意的反応を示した。ドイツはWEU 閣僚会合の招請に同意し、3月10日にはフランス政府に対して駐仏イギリス大使館から、ドイツ政府にWEU 閣僚会合招請を依頼したことが通知された⁽⁶⁴⁾。

3月11日、ヒースの司会により外務省において、EEC 諸国駐在大使、EFTA 諸国駐在大使、NATO・OECD・EFTA・EEC・欧州審議会各常駐代表、外務担当相、外務次官・次官代理・次官補級、さらに大蔵省からブリュッセル交渉次席代表を務めたロール（Sir Eric Roll）が参加して、ブリュッセル交渉決裂後のこれまでの対応を評価し、今後の課題を整理する会合が開催された。議論はまずヒースによるこれまで検討されてき

た対応方針の説明から開始された。すなわち、ドゴールへの対抗はまず NATO でなされるべきであるがヨーロッパ規模の政治協力問題について主要な議論の舞台は WEU とならざるを得ない、ドイツからの支援確保が重要であるがドイツに対して英仏間の選択を強いるべきでもない、EEC 加盟より交渉が容易な経済的協力関係の可能性はない、EEC 諸国との経済協議の方法は、ブリュッセル代表部強化、関係各省庁による EEC の制度発展への対応、WEU 経済委員会設置といったものとなるだろう、まず多国間枠組みを優先しそれが不可能なら二国間枠組みを利用すべきである、といった内容であった⁽⁶⁵⁾。

その後、各大使から関係国・諸機関についての分析が披瀝された。フランスについてはディクソンから、ドゴールの政策にも柔軟性はあるが、フランスの指導する独立したヨーロッパというビジョンは確固たるものであり、WEU での政治協議は必ずや妨害されるだろうとの見通しが示された。5 カ国はフランス抜きでの前進は望まないであろうし、イギリスとしては独米の支援が得られる形で単なる反ドゴールではない建設的提案が必要であるというのがディクソンの意見であった。ドイツについてはロバーツから、現在ドイツの対英感情は 54 年以来最も好意的であるが、同時にエリゼ条約もまた大半のドイツ国民から評価されており、ドイツ政府は英仏間で板挟み状況にあるとの見解が示された。またロバーツは、イギリスの EEC 加盟の動機が真剣に統合に参加する意図に基づくものなのかという疑念もドイツ国内には依然存在していると指摘し、ディクソン同様、アメリカによるイギリスの行動への支持がドイツからの協力確保には不可欠であると述べた。彼もまたフランス抜きでのイギリスと 5 カ国による制度的取り決めにはドイツは反対すると予想し、フランスが拒否した場合 3 月中の WEU 閣僚会合開催は不可能であろうと指摘した。またドイツ政府内で親英的なのは経済省と財界であり、WEU で政治的協力を追求することは、親英度の薄い層に働きかけ

論 説

ることを意味するので容易ではないとも指摘された。さらに NATO 核戦力については、ドイツはイギリスの参加する MLF を望むだろうとも指摘された。NATO/MLF については、NATO 駐在代表シャックバラからも、イギリスの核抑止力の独立性をあまり強く主張すべきではなく、人員設備双方で積極的協力の意思を示すべきであると指摘された。シャックバラはまた NATO においてフランスを孤立化させるべきではなく、NATO を強化し、その分裂を回避するイニシアチブが必要であるとも述べた⁽⁶⁶⁾。

その他 EEC 諸国についてもそれぞれ駐在大使から見通しが示された。イタリアはフランスへの抵抗を長期間貫くことはできないであろうとされた。ベルギーの親英感情も長続きはせずやがて EEC の発展を目指す方向に回帰するだろうとされ、さらに NATO と WEU はベルギーには関係が薄く、むしろイギリスと EEC 間の日常的法制標準化の試みなどの方が協力維持のためには有効ではないかと指摘された。オランダについても、5カ国中最もフランスへの反感は強く、協力の意思は強固であるが、WEU の価値には疑問が抱かれていると指摘され、ブリュッセル代表部強化の方が有効であろうとされた⁽⁶⁷⁾。

EFTA 諸国についてはともに加盟申請をおこなった一部諸国を5カ国との協議に参加させるべきではないかとの声もあったが、ヒースはイギリスと EFTA 諸国内部で協議を進めるべきとしてこれを退けた。EEC/欧州委員会との関係では、今後共同体が新たに制定する規則は、そのままではイギリス加盟をより困難にする可能性が高く、ブリュッセル代表部を強化し、単なる第三国代表を超えた地位を構築する、そして欧州委員会、特にハルシュタインとの連絡を密にすべきであるというのが駐在代表の意見であった⁽⁶⁸⁾。

対 EEC 関係を超えた全般的通商政策としてはケネディラウンドの見通しが議論され、成功のためにアメリカとの連携を緊密にすべきという

声と、EEC が農業貿易面で譲歩し、アメリカが工業製品関税削減で譲歩して合意が形成されるよう、GATT の場で EEC、アメリカと協力すべきとの声の双方が示された。EEC 内部に関しては、フランスはケネディラウンド関税削減合意を取引材料として共同体政策について他の 5 カ国から譲歩を引き出すつもりであろうと推測された⁽⁶⁹⁾。

最後に議論されたのはイギリスの対ヨーロッパ政策の基本目標の再確認とその実現のための機構であった。最終的な EEC 加盟を目指すという方針は正しいかとのヒースの問いかけに対して、外務次官代理ライリーは、加盟追求の上で直面する困難は大きく、加盟以外の何らかの魅力ある代替案が生じる可能性は排除できないとの慎重な意見を述べた。またディクソンも、イギリスの政策は必ずしも共同市場加盟ではなくイギリスの望む政治的ヨーロッパ像形成の促進とすべきであると述べていた。しかし駐ベルギー大使ニコルズ (Sir John Nicolls) は、EEC 加盟が究極目標であることをより強く示す方がベルギーの協力は得られやすいと述べ、ヒースも、5 カ国との協力確保のため加盟を目標として維持すべきであるとの考えであった。ただし短期的には加盟失敗の故に 5 カ国と合意できない問題も生じる可能性はあり、その際には事情を率直に説明すべきであるとされた。加盟を最終的目標として EEC 諸国、少なくとも 5 カ国との協力を推進するための機構としては、やはり NATO と WEU、特に後者が中心となるというのが結論であった。NATO、WEU 双方においてフランスを過度に孤立化させてはならないとの制限も容認された。また WEU で政治協議のみをおこなうなら意見の相違が表面化するの回避し難く、経済面での協議も可能な限りおこなうべきであるともされた。当面 WEU では実務的協議を追求しフランスの参加拒否は回避すべきであるが、それでもフランスが参加を拒むならどうするか、という点については妙案は得られなかった⁽⁷⁰⁾。

ヒースのまとめた結論は、イギリスによる「大きな新イニシアチブ」

論 説

を通じてアメリカ政府に説明していたが、この時点では英米間の MLF についての理解に大きな差異はないように思われた。イギリス側は、ドゴールのヨーロッパにかわる選択肢があり、大西洋同盟内でヨーロッパがより大きな役割を果たすことは可能であるとヨーロッパ側に示すことが NATO 核戦力構築に関するイギリスの意図であると説明し、アメリカ側は MLF 構築により、NATO 内の非核保有国の利益を守ることが自らの狙いであると述べていた。NATO 外でのイギリスと EEC 諸国の経済協力関係についてもアメリカは、自らの経済的利益に悪影響がない限り支持すると述べていたが、工業製品関税同盟構想をイギリスが否定したことによりこの点で英米間に対立をもたらす種はないことが確認されていた。WEU 活性化というイギリスの方針もまたアメリカからは了解を得られていた⁽⁷⁶⁾。

3月14日閣議で NATO 核戦力問題が議論された。閣議に対してはヒュームから覚書が提出されており、20日の NATO 理事会に臨むにあたっての姿勢が説明されていた。「NATO 核戦力とヨーロッパ政策」と題する外相覚書に示された、イギリス政府の理解によるナッソー合意に基づく NATO 核戦力は以下のようなものであった。当初、既存の戦術・戦略核戦力（NATO 司令官指揮下におかれるイギリス戦略爆撃機部隊と米ポラリス原潜3隻に加えミサイルや航空機搭載戦術核）により構成され次第に新兵器に更新される。これにより核兵器運搬手段を運用可能なヨーロッパ諸国も当初から参加できる（弾頭は別）。これに加えて国際的に所有され国際的に兵員が配備されるポラリス装備水上艦ないし潜水艦が導入される可能性もあり、これは Multilateral Force: MLF と呼ばれる。イギリスは戦術核も含む NATO 核戦力を信託グループの統制下におくことを提案している。アメリカが中心的関心を抱いているのは混合兵員部分である。イギリスはすでにポラリス潜水艦の NATO 核戦力への提供を約束しており、MLF への拠出は極めて限定的なものとな

らねばならない。艦船乗組員の一部程度であろう⁽⁷⁷⁾。ヒュームはさらに、ナッソー合意の早期実現を図ろうとするイギリスの姿勢は、ブリュッセル交渉決裂後の大西洋同盟内でのヨーロッパとの関係強化にも貢献し、ヨーロッパの同盟国からも支持されるだろうと述べていた⁽⁷⁸⁾。

閣議でヒュームは、口頭で補足説明をおこない、アメリカの支持する多国籍混合兵員によるポラリス搭載艦船の形成する MLF に参加する場合、10 年間にわたり総額 1 億ポンド程度のコストの分担が求められるとの試算を示した。同時に彼は、英米提案はいずれもドイツの核兵力運用の希望に対応するものであり相互に排他的ではなく、むしろ相互補完的なものであると述べたが、閣僚達からは、MLF 参加の際の費用負担を問題視し、そのような財政的コミットメントは回避すべきであるとの指摘もなされた。しかしこの時点での閣議の合意は、ドイツはアメリカによる MLF 構想を支持しており、アメリカ提案に完全に否定的な姿勢も取るべきではない、最大限具体的約束を回避しながら NATO で MLF 構想を検討することは認めるべきであろうというものであった⁽⁷⁹⁾。

25 日の閣議でヒュームから 20 日の NATO 理事会での議論が報告され、MLF 問題について再度議論がおこなわれた。NATO 理事会でのヒュームの発言は、旧式化しつつあるイギリス戦略爆撃機部隊を NATO 指揮下におくことによりヨーロッパ核戦力構築への貢献の意思を示すという、議会でも説明された方針を繰り返すだけのものであった。ナッソー合意によりアメリカから供与されるはずのポラリス戦略核システムをどのように NATO 核戦力に提供すべきかという問題をめぐっての英米間の相違は未解決なままであった。イギリスの理解では NATO 核戦力は Multi-National Force であり、各国が自国提供核戦力への最終的主権を維持したまま NATO 指揮下に編入することにより、その大部分を構築するというものであった。しかしアメリカは、それだけでは非核保有国の希望は満たされないとし、ポラリスミサイル装備の水上艦

論 説

による純粋な多国籍混成部隊である Multi-Lateral Force を強く支持し、NATO 理事会では、ドイツ、イタリアもそのための費用負担をおこなう用意があるとの姿勢を示していた。アメリカも MLF 提案の詳細は確定していなかったが、ヒュームの説明ではイギリスに対しても弾頭、兵員、港湾施設などの提供による参加が期待されており、MLF 全体のコストのうち 5～10%の負担が求められるのではないかというのが外務省の想定であった⁽⁸⁰⁾。

国防相ソーニクロフト (Peter Thorneycroft) は、アメリカは NATO 通常戦力拡大も求めており、そのためにイギリスは今後 3 年で 3 億から 4 億ポンドの負担が必要であると指摘し、これに加えて MLF 参加の場合の 10 年間で総額 1 億ポンドの負担は受け入れ難いと述べた。イギリスのポラリス原潜部隊は MLF に提供するのではなく NATO 指揮下におくにとどめるべきというのが彼の主張であった。マクミランもまたアメリカの主張する形の MLF への参加には明確に反対する姿勢を示した。彼の理解によれば、ナッソーにおいてイギリスは戦略爆撃機部隊を NATO 指揮下の Multi-National Force におくことに同意し、英ポラリス原潜部隊を米が同等の貢献をするとの前提で Multi-Lateral Force に提供することにも同意した。しかし MLF は米核戦力、英ポラリス部隊、その他 NATO 諸国による混成兵員核戦力の三要素からなるものであり、イギリスのポラリス部隊を第三の混成兵員要素に含む義務は存在しないはずであった。ナッソー会談以後アメリカが multilateral という言葉に多国籍混成という意味だけを与えてしまい混乱が生じたのであり、当面はアメリカが多国籍混成 MLF 構想に対して同盟国の支持を得ようと行動することを抑制し、イギリスの MLF 参加コミットメントを回避することが必要であるというのが、マクミランによりまとめられた閣議の合意であった⁽⁸¹⁾。

3 月上旬に EER 委員会から提出された閣僚宛報告は、14 日 ES(G)委

員会で審議され、若干の修正を経た後 PB 委員会に提出された⁽⁸²⁾。

ES(G)委員会報告書はまず基本的前提として、近い将来の加盟は極めて非現実的である、2月のEPCで閣僚達は最終的な共同体加盟と合致する形でイギリスの政策を発展させるべきと合意している、共同体解体はヨーロッパ統一を求めケネディラウンド成功を求めるイギリスの政治的・経済的利害に反し5カ国にとっても不利益である、という三点を確認した上で、下記の三つの問題を検討していた⁽⁸³⁾。

まず検討されていたのは、どの程度までイギリスの国内政策はEEC加盟に及ぼす影響を念頭に採用されねばならないかという問題であり、報告書では以下の基本的指針が提示されていた。すなわち、共同体の発展を妨害する政策はイギリスの影響力を喪失させるものであり、イギリス自ら回避するだけでなく5カ国側のそのような動きも奨励すべきでない。格別強固な理由がない限り共同体加盟の可能性を減じる政策をとるべきではない。積極的不利益が生じない限り共同体加盟の可能性を増す政策を取るべきである。共同体の利害に反する政策を採用せざるを得ない場合も共同体にその理由を説明する必要がある、といった指針である⁽⁸⁴⁾。

ついで検討されたのは、イギリスはどこまでEECの政策に影響を及ぼすべきかという問題であり、一般的指針としては、以下の指摘がなされていた。可能な限り共同体の発展がイギリスの利害にかなうよう努力すべきである。ヨーロッパの広範な経済統一への障害を回避するという観点から共同体に影響を及ぼす対応は可能であろう。個別の問題についてイギリスの選好を示すことは共同体内の議論で一方に加担することになるので回避すべきである。影響を与える機会も程度も限定されるので重要な問題に集中すべきである。できるだけイギリスの加盟を積極的に困難にすることがないように介入することは許されるだろう。共同体が保護的になりイギリスの加盟が不可能になることがないようにするための

介入も許される、といった指摘である。具体的に影響を及ぼすべき最重要課題とされていたのは、CAP、特に農産物価格政策と対ケネディラウンド政策であった。この点についてイギリスは、5カ国と欧州委員会に対し、共同体が、世界貿易の発展、国際貿易規制の漸進的廃止、関税障壁低下への貢献といった原則を現実化するよう求めるべきとされていた。またコモンウェルス諸国も含めた温帯産農産物貿易発展に協力するという、ブリュッセル交渉で示された姿勢の具体化も求めるべきであるとされていた⁽⁸⁵⁾。

最後に検討されたのは、経済面で共同体諸国との接触維持のためどのような取り決めが望ましいかという問題であった。報告書で経済問題に限定した協力の場としてあげられていたのはすでに進められていた英独委員会、英伊委員会、英ベネルクス委員会及び通常的外交チャンネルによる二国間折衝に加え、欧州委員会との接触、個別あるいは集合的な5カ国とイギリスのブリュッセル常駐代表間協議であった。報告書ではさらにOECDでの共通エネルギー政策についての議論、欧州運輸閣僚会議(European Conference of Ministers of Transport: ECMT)での共通運輸政策も協力が可能な舞台であるとされていた。これらに加えてEECとの協調が可能な分野としては工業製品規格調整、ヨーロッパ薬局方作成などが具体的にあげられ、政府各省庁がそれぞれに協力可能な分野を見いだすべく努める必要も指摘されていた。しかしいずれにしても5カ国ないし6カ国との政治協議が前進しない限り、二国間折衝を多国間協議に発展させるのは困難であるというのが報告書の結論であった⁽⁸⁶⁾。

3月20日の第2回PB委員会でこのES(G)委員会報告が審議された。委員会ではまずヒースからドイツによるWEU閣僚会合招請に至る経緯が説明され、フランスの姿勢はなお不明であるが、開催可能な場合にはヨーロッパ問題を議事に含めることをイギリスとしては求めるという姿勢が示された。またイタリアからはWEU内に経済委員会を設置す

るという提案が示される可能性があること、スパークも継続的な政治協議提案をおこなう意向であることが紹介された⁽⁸⁷⁾。

続いて「EEC との将来の経済的關係」という議題のもと、ES(G)報告が審議された。まずヒースから報告内容に全面的に賛同する姿勢が示された。閣僚の一部には、報告はイギリスが共同体に対して与える影響について楽観的に過ぎるのではないかとの声もあった。しかし、当面加盟はありそうもないが将来の加盟の可能性を損なわない対応が必要である、加盟の可能性を減少させる政策採用には強固な理由が必要であり可能な限り加盟可能性を増大させるべきである、共同体の経済通商政策が外向きで開放的なものとなるよう働きかける必要がある、公式・非公式の接触をブリュッセル駐在代表部と通常の大使館双方で持つ必要があるといった勧告を指針とすることは閣僚達により承認された。さらに具体的対応として、共同体農業政策については農水食糧省が姿勢を検討するものとされた⁽⁸⁸⁾。

8

本章第2節で見たように、ブリュッセル交渉決裂後早期に、閣僚達はコモンウェルスに EEC 加盟にかわる代替選択肢とすることはしないとの方針を確認し、春にコモンウェルス経済閣僚会議を開催し、必要に応じて二国間通商協議も開催するとの合意を形成していた。2月下旬になりモードリングは、オーストラリア、ニュージーランド、カナダとの間で早期に二国間協議を開催しなければ、党内の親コモンウェルス勢力からコモンウェルスによる代替選択肢を求める圧力が増大するとの警告を商相エロル (Frederick Erroll) に書き送った。モードリングはさらにカナダ総選挙で野党が勝利すれば非公式に英加 FTA 検討を持ちかける余地があるのではないかと述べていた。後者についてはヒースから、将来の EEC 加盟を困難にする政策は回避するという EPC での合意に反す

るとの指摘がなされ、追求されることはなかった。しかしモードリングはなお、いつ実現するか不明な EEC 加盟までの間、他分野で有効なイニシアチブがとれないことへの不満を述べていた。前者の提案、コモンウェルスとの二国間通商協議についても商務省側の見解は、現時点で交渉してもイギリスはより不利な条件を得るだけであり、コモンウェルス通商閣僚会議まで待つべきというものであった⁽⁸⁹⁾。

コモンウェルスとの二国間通商協議問題は、3月上旬 EER でも議論されたが、そこでも早期の交渉開始はイギリスにとって不利益であるという声を示された。コモンウェルスとの通商協議においては現状以上に有利な地位を確保するのは困難であり、ケネディラウンドを念頭におくならば、通商政策の自由度を確保しておく方が望ましいというのが EER での議論であった⁽⁹⁰⁾。

3月9日にはオーストラリア首相メンジースからマクミランに対し、早期の英豪通商協定改定交渉を求める書簡が届けられ、コモンウェルス関係省からは、二国間協議に応じる姿勢だけは示さないと先方の要求だけを突きつけられる危険があるとの声も示されていた⁽⁹¹⁾。

しかし、3月半ば EER と ES(G) に提出された商務省の見解は、先の EER での議論を追認するものであった。コモンウェルスはなおイギリスの輸出入双方で 40% 程度を占めていたが、貿易額は 54 年と 61 年でほぼ同額であり実質的に減少していた。コモンウェルス市場でのイギリスのシェアも低下し、コモンウェルス側のイギリス以外の国との貿易も増大していた。イギリス市場にコモンウェルスからの輸出増大を受け入れる余地は少なく、通商交渉をおこなえばコモンウェルス市場でイギリスが享受する特惠は縮小されるだけと考えられた。イギリス側から交渉を持ちかける意義はほとんどなく、「コモンウェルス共同市場」や「コモンウェルス FTA」といった形式の『コモンウェルスによる代替選択肢』はないというのが商務省の結論であった⁽⁹²⁾。

3月25日のES(G)で将来の対コモンウェルス通商関係全般が議論されたが、そこでの結論は、ケネディラウンドと国内農業政策の将来が明確にならない限り対コモンウェルス通商関係について指針を定めることはできないというものであった。少なくとも現時点でイギリスから通商交渉を提案すべきではないというのがES(G)の見解であり、採用されたのは、4月中旬以降再度閣僚レベルで問題を検討するという先送りの対応であった⁽⁹³⁾。

こうしてブリュッセル交渉決裂後の対外経済政策再検討という文脈において、コモンウェルスを選択肢として検討する可能性はほぼ否定された。対コモンウェルス通商関係の見直しも可能な限り先送りするという消極的対応が採用された。後述するようにこの対応への異論は完全に消滅した訳ではない。また10月の政権交代後もコモンウェルスとの関係強化を求める声は一時再燃することになる。しかし本稿との関係でいうなら、少なくともマクミラン政権下では、以後、具体的な対コモンウェルス通商関係促進をもたらす成果が得られることはなかった。

注

- (1) TNA T312/365, Macmillan to Maudling on a report by officials on 'Policy in the event of a breakdown in the Brussels negotiations', 28 Jan. 1963. T312/365, Mitchell to Clift, reporting Maudling's comments on 30 Jan. 1963.
- (2) TNA CAB128/37, CC(63) 9, 31 January 1963, 2. Economic Policy.
- (3) TNA PREM11/2532, Macmillan to Lloyd, 15 & 26 Oct. 1958. PREM11/2532, Lloyd to Macmillan, 31 Oct. 1958. 詳細は James Ellison, *Threatening Europe: Britain and the Creation of the European Community, 1955-58* (Basingstoke: Macmillan, 2000), p. 208.
- (4) TNA PREM11/4735, Macmillan to Home, enclosing a draft speech on WEU, 27 Jan. 1963.
- (5) TNA PREM11/4735, Home to Macmillan, 29 Jan. 1963.

論 說

- (6) TNA PREM11/4735, de Zulueta to Wright (FO), 30 Jan. 1963, comment by Macmillan on minute by Home of 29 Jan. 1963. PREM11/4735, minute for de Zulueta, 2 Feb. 1963. PREM11/4735, Wright (FO) to de Zulueta, 14 Feb. 1963.
- (7) TNA PREM11/4735, de Zulueta to Bridges (FO), Macmillan's comment on Bonn telegram no. 293, 20 Mar. 1963. PREM11/4735, minute by Home for Macmillan, 27 Mar. 1963, 'the denunciation of the revised Brussels Treaty'. PREM11/4735, de Zulueta to Bridges (FO), Macmillan's comment on minute by Home of 27 Mar., 28 Mar. 1963.
- (8) TNA PREM11/4524, Kennedy to Macmillan, 31 Jan. 1963. PREM11/4524, FO to Washington, Macmillan to Kennedy, 5 Feb. 1963.
- (9) TNA DO162/12, minute by McIndoe for Bottomley, 'Common Market', 28 Jan. 1963. PREM11/4524, McIndoe (CRO) to de Zulueta, 'Brussels Negotiations', enclosing a draft message to Commonwealth Prime Ministers, 29 Jan. 1963.
- (10) TNA DO162/12, note by the UK delegation to the Brussels Conference, 'EEC Negotiations', record of meeting with Commonwealth Representatives in Brussels (Sandys and Heath present) on 29 Jan. 1963, 30 Jan. 1963.
- (11) TNA PREM11/5153, Bligh to Huijsman (CRO), 29 Jan. 1963. PREM11/5153, CRO to Ottawa, Diefenbaker's phone call to Macmillan, 29 Jan. 1963.
- (12) TNA DO162/12, CRO to UK High Commissioners, 'EEC Negotiations', Macmillan to Commonwealth PM/Presidents, 30 Jan. 1963.
- (13) TNA PREM11/4524, Ottawa (UK High Commissioner) to CRO, Diefenbaker's reaction to Macmillan's message, 30 Jan. 1963. PREM11/5153, Ottawa to CRO, 'Common Market negotiations', text of Diefenbaker's statement on 29 Jan. 1963, 30 Jan. 1963. DO162/12, CRO to UK High Commissioners, 'Breakdown of EEC Negotiations', Heath's meeting with Commonwealth High Commissioners on 31 Jan. 1963, 1 Feb. 1963. DO162/12, note by CRO, 'Common Market Negotiations', record of a meeting of Commonwealth High Commissioners at CRO on 31 Jan. 1963 (Sandys in the Chair, Heath present), 4 Feb. 1963. DO162/12, CRO to UK High Commission Ottawa, Macmillan to Diefenbaker, 1 Feb. 1963.
- (14) TNA PREM11/5153, Wellington to CRO, 'EEC negotiations', New Zealand's reaction, 30 Jan. 1963. DO162/12, CRO to UK High Commissions in Canberra and Wellington, Macmillan to Menzies and Holyoake, 31 Jan. 1963. PREM11/5153,

第一次 EEC 加盟申請の失敗とイギリスの対ヨーロッパ政策再検討過程

- Wellington to CRO, Holyoake's reply to Macmillan's message, 1 Feb. 1963. PREM11/5153, Australian High Commissioner in London to Macmillan, text of Menzies' statement of 5 Feb. 1963, 5 Feb. 1963.
- (15) TNA PREM11/5153, Robertson (Cabinet Office) to de Zulueta, 6 Feb. 1963. PREM11/5153, McIndoe to de Zulueta covering Sandys to Macmillan enclosing a draft circular telegram for Commonwealth countries, 6 Feb. 1963. DO162/12, CRO to UK High Commissioners, 'Economic Policy after Brussels', additional message to Commonwealth PMs from Macmillan, 7 Feb. 1963. DO162/12, CRO to UK High Commissioners, 'Economic Policy after Brussels', additional message to Commonwealth PMs from Macmillan, 8 Feb. 1963. PREM11/5153, CRO to UK High Commissioners, 'Policy after Brussels', 8 Feb. 1963.
- (16) TNA PREM11/5153, CRO to Wellington, 'Policy after Brussels', 7 Feb. 1963. PREM11/5153, CRO to Ottawa, 'Policy after Brussels', Macmillan to Diefenbaker, 7 Feb. 1963. PREM11/5153, CRO to Canberra, 'Policy after Brussels', Macmillan to Menzies, 8 Feb. 1963. PREM11/5153, Canberra to CRO, 'Economic Policy after Brussels', 8 Feb. 1963. PREM11/5153, Australian High Commissioner in London to Macmillan, message from Menzies to Macmillan, 8 Feb. 1963.
- (17) TNA PREM11/4524, record of conversation between Macmillan, Home, Heath and the Danish Premier (Krag) at Admiralty House, 31 Jan. 1963.
- (18) TNA T312/1003, brief for the Prime Minister for his visit to Rome: 'The EEC negotiations, talking points', undated.
- (19) TNA PREM11/4735, extract from the record of meeting between, Macmillan, Heath and Italian ministers, 1 Feb. 1963. PREM11/4524, record of conversation at the Palazzo Chigi between Macmillan, Heath and Fanfani, Piccioni, Marhiori, Bianchi, 2 Feb. 1963. PREM11/4524, record of meeting at the Palazzo Chigi between Macmillan, Heath and Fanfani, 2 Feb. 1963.
- (20) TNA T312/1002, record of conversation between Heath and the Netherlands Ambassador on 5 Feb. 1963.
- (21) TNA T312/365, Owen to Armstrong, enclosing a revised version of the draft statement of UK policy in the event of the breakdown in the Brussels negotiations, 31 Jan. 1963. T312/1002, Mitchell to Clift, Maudling's comment on Bonn telegram no. 152 of 6 Feb., 8 Feb. 1963. T312/1003, copy of brief for Thomas

論 說

- (FO) as part of brief for Anglo-Swedish talks, 'domestic measures to strengthen the economy', 25 Feb. 1963.
- (22) TNA PREM11/4220, Heath to UK delegation in Brussels, tel. no. 82, 6 Feb. 1963. PREM11/4220, Heath to UK delegation in Brussels, tel. no. 83, 6 Feb. 1963.
- (23) TNA FO371/171462/M10920/35, minute by Keeble covering a speaking note for Heath, 'relationship with the EEC other than full membership', 11 Feb. 1963. PREM11/4524, FO to Paris, text of Heath's statement in the House of Commons on 12 Feb. 1963, 13 Feb. 1963. FO371/171461/M10920/12, FO to Paris, Heath's comment in the House of Commons on 12 Feb. 1963, 13 Feb. 1963. PREM11/4524, FO to Paris, on Heath's statement, 15 Feb. 1963.
- (24) TNA T312/1002, Widdup to Owen, 30 Jan. 1963. T312/1002, Widdup to France, 5 Feb. 1963. T312/1002, J. L. Clarke to Widdup, 6 Feb. 1963.
- (25) TNA FO371/171461/M10920/13, Gorell Barnes (CO) to France(T), enclosing his note, 'relations with EEC after the breakdown', 7 Feb. 1963.
- (26) TNA PREM11/4220, de Zulueta to Macmillan, 'a Positive Policy after Brussels', 4 Feb. 1963.
- (27) TNA CAB134/1544, CMN(O) (63) 9th meeting, 6 Feb. 1963. CAB134/1887, ES (G) (63) 1st meeting, 'Economic Policy after Brussels', 5 Feb. 1963. T312/365, Armstrong to Mitchell, covering a report for ministers, 'Economic Policy after Brussels', 6 Feb. 1963. CAB134/1888, ES(G) (63)1(revise), note by the Secretaries (covering the memo. by Treasury), 'Economic Policy after Brussels', 7 Feb. 1963. CAB134/1698, EA (63) 22, memo. by the Chancellor, 'Economic Policy After Brussels', 7 Feb. 1963. CAB134/1697, EA (63) 7th meeting, '2. Economic Policy After Brussels', 13 Feb. 1963.
- (28) TNA PREM11/4524, Bonn (Steel) to FO, von Brentano's talk, 3 Feb. 1963. PREM11/4524, Bonn (Steel) to FO, German attitude towards UK, 3 Feb. 1963.
- (29) TNA PREM11/4524, Brussels (Nicholls) to FO, 5 Feb. 1963.
- (30) TNA FO371/171462/M10920/26, note by EEOD, FO, 'Belgian Proposals for Links between the UK and the EEC', 7 Feb. 1963. T312/1002, Keeble (FO) to Wiggin (FO), enclosing a brief for Home, 'Belgian proposals for links between the UK and the EEC', 7 Feb. 1963.
- (31) TNA FO371/171461/M10920/6, Brussels (Nicholls) to FO, enclosing Home to

第一次 EEC 加盟申請の失敗とイギリスの対ヨーロッパ政策再検討過程

- Heath, 7 Feb. 1963 and Spaak's original proposal to Home, 7 Feb. 1963.
- (32) TNA T312/1002, UK delegation to Brussels Conference (Robinson) to Keeble (FO), 'The Next Steps', 8 Feb. 1963. T312/1002, Wiggin (FO) to Gallagher (FO), 8 Feb. 1963. FO371/171461/M10920/6(C), minute by Wiggin, 8 Feb. 1963. FO371/171461/M10920/8, Brussels (Nicholls) to FO, reporting conversation between Home and Spaak, 8 Feb. 1963. FO371/171461/M10920/8, FO to Brussels, enclosing message from Heath, 8 Feb. 1963. FO371/171461/M10920/10, note by Gallagher, 'Belgian proposal for an agreement between Britain and the EEC', 8 Feb. 1963. FO371/171461/M10920/6(B), Brussels (Nicholls) to FO, 9 Feb. 1963. FO371/171462/M10920/33, note by Barclay for Reilly, 'Belgian proposals for an agreement between the UK and the EEC', 8 Feb. 1963 and comment by Reilly, 9 Feb. 1963, agreement by Caccia with Reilly, 11 Feb. 1963.
- (33) TNA T312/1002, Owen to Lavelle, 'Belgian proposal for a Customs Union between UK and the Six', 8 Feb. 1963. T312/1002, Owen to Mitchell, 'Belgian proposal for a Customs Union', covering his minute for Lavelle of 8 Feb. above, 11 Feb. 1963.
- (34) TNA T312/1002, Maudling to Heath, 'Belgian proposal for a Customs Union', 11 Feb. 1963.
- (35) TNA PREM11/4524, de Zulueta to Wiggin (FO), 11 Feb. 1963.
- (36) TNA T312/1002, France to Rickett, 'Belgian proposal for a Customs Union', 11 Feb. 1963. FO371/171461/M10920/6, FO to Brussels, 11 Feb. 1963.
- (37) TNA FO371/171461/M10920/12, Paris (Dixon) to FO, Belgian proposals to link UK economically with the Common Market, 12 Feb. 1963. FO371/171461/M10920/14, Brussels (Nicholls) to FO, 12 Feb. 1963. FO371/171461/M10920/16, The Hague (Noble) to FO, 13 Feb. 1963.
- (38) TNA FO371/171461/M10920/20, Brussels (Nicholls) to FO, enclosing message from France and Jackling, 14 Feb. 1963. FO371/171462/M10920/29, COMLEE(63) 23, note by FO, 'record of the visit of officials to Brussels, 14 Feb. 1963', 15 Feb. 1963. FO371/171462/M10920/29(C), amendments to COMLEE(63) 23. T312/1002, the revised Belgian Plan for Political and Economic Arrangements between the UK and the EEC, COMLEE(63) 22, 15 Feb. 1963.
- (39) TNA T312/1002, Bishop to Reilly, 19 Feb. 1963. FO371/171461/M10920/8, FO

論 說

- to The Hague, 19 Feb. 1963. FO371/171462/M10920/28, FO to The Hague, 19 Feb. 1963. FO371/171462/M10920/28 (A), minute by Gallagher, 20 Feb. 1963. FO371/171462/M10920/28 (A), minute by Wiggin, 20 Feb. 1963. FO371/171462/M10920/28, FO to The Hague, 20 Feb. 1963. T312/1002, Thomas to Barclay, 20 Feb. 1963. T312/1002, Lucas to Jackling, enclosing a draft paper about the economic aspects of the Belgian proposals, 18 Feb. 1963. T312/1003, record of Anglo/Dutch talks on amendments to the Spaak Plan, 21 Feb. 1963. T312/1002, note by Bishop, record of discussion with Dr. Franke on 20 Feb. 1963. T312/1003, Lucas to France, 21 Feb. 1963. FO371/171463/M10920/46, minute by Barclay for Hood, 21 Feb. 1963 and minute by Hood, 22 Feb. 1963. FO371/171463/M10920/49, COMLEE (63) 24, minute by France, record of discussion with Dutch officials, 21 Feb. 1963. CAB134/2392, Annex B to PB(63) 2, 19 Feb. 1963. T312/1002, France to Rickett, enclosing a note for Heath, 20 Feb. 1963. T312/1003, Mitchell to France, minute by Maudling on France's note of 20 Feb. 1963, 21 Feb. 1963.
- (40) TNA T312/1002, France to Rickett, enclosing a note for Heath on 'Belgian Proposals for an Industrial Customs Union: Economic Aspects', 20 Feb. 1963. T312/1002, Scott (FO) to Owen, skeleton of line to take with Spaak and Luns, undated. FO371/171463/M10920/51, Owen to Gallagher, 22 Feb. 1963, enclosing a draft speaking note for Heath's possible meeting with Spaak and Luns.
- (41) TNA FO371/171463/M10920/45, minute by Hood for Heath, record of meeting with the Netherlands Ambassador, 21 Feb. 1963. FO371/171463/M10920/45, Hood to The Hague (Noble), 21 Feb. 1963. See also, FO371/171462/M10920/36, record of conversation between the Netherlands Ambassador and Heath on 22 Feb. 1963.
- (42) TNA FO371/173302/WP7/7 (A), minute. Scott, 'Lord Hood's Committee', 9 Feb. 1963. FO371/173302/WP7/7, minute by Reilly for Caccia, 'Brussels Aftermath', 9 Feb. 1963 and minute by Caccia, 11 Feb. 1963. FO371/173302/WP7/8, minutes of Lord Hood's Committee on 11, 12, 13 and 14 Feb. 1963. FO371/173302/WP7/14, minute by Scott, enclosing a letter from Robinson (UK delegation to the Brussels conference) to Lavelle, 15 Feb. 1963. FO371/173302/WP7/14 (A), minute by Hood on Robinson to Lavelle, enclosing a minute on Fouchet/

第一次 EEC 加盟申請の失敗とイギリスの対ヨーロッパ政策再検討過程

- Cattani Plan by Hood of 18 Feb. 1963, 19 Feb. 1963 and minute by Caccia, 19 Feb. 1963. T312/1003, Lucas to France, 21 Feb. 1963. PREM11/4524, Rome (Ward) to FO, report of Hallstein's meeting with Fanfani on 11 Feb. 1963, 14 Feb. 1963.
- (43) TNA T312/1002, note by Barclay (FO), 'Contacts with the EEC', 11 Feb. 1963.
- (44) TNA FO371/171463/M10920/47, Brussels (Roll, UK delegation to the Brussels Conference) to Reilly, 21 Feb. 1963.
- (45) TNA T312/1002, Clarke to Widdup, enclosing a list of subjects, the developments of which in the EEC will be of concern to the UK, 13 Feb. 1963. T312/1002, Widdup to Owen, enclosing a draft memo, 'Future economic relations with the EEC', 15 Feb. 1963. FO371/173302/WP7/9/G, Scott to France, enclosing a FO paper of 19 Feb., 'Future Policy towards Europe', as part of the draft of CMN (63) 20, 20 Feb. 1963. T312/1002, CMN(O) (63) 20, 'Future relations with the European Economic Community', note by the Treasury covering the draft memo., 19 Feb. 1963.
- (46) TNA FO371/173302/WP7/9/G, minute by Hood for Heath covering a FO paper on 'Future Policy towards Europe', 19 Feb. 1963. T312/1002, Widdup to France on CMN(O) (63) 20, 20 Feb. 1963.
- (47) TNA FO371/173302/WP7/9/G(B), minute by Hood for Caccia, enclosing the list of questions to be pursued, 20 Feb. 1963 and minute by Hood for Barnes, 27 Feb. 1963.
- (48) TNA FO371/173302/WP7/8(E), summary of meeting held in the Lord Privy Seal's office on 20 Feb. 1963.
- (49) TNA CAB134/1544, CMN(O) (63) 10th meeting, 'Future relations with the EEC', 22 Feb. 1963. CAB134/1544, CMN(O) (63) 20(Revise), note by Treasury, 'Future Relations with the European Economic Community', 27 Feb. 1963.
- (50) TNA CAB134/1517, CMN(63) 6, note by Trend, 'Dissolution of the Committee', 26 Feb. 1963. CAB134/2392, PB(63) 1, note by Trend, 'Composition and Terms of Reference of the Committee', 26 Feb. 1963.
- (51) TNA CAB134/2392, PB(63) 2, memo. by Heath, 'Future Policy in Europe', 26 Feb. 1963. FO371/173302/WP7/12, Owen to Lavelle, 'Future Policy towards Europe', enclosing a brief on the paper for the Post-Brussels Committee, 26 Feb. 1963.

論 說

- (52) TNA CAB134/2392, PB(63) 1st meeting, 27 Feb. 1963.
- (53) TNA T312/1002, France to Wiggin, 15 Feb. 1963. PREM11/4524, Geneva (Cohen, UK delegation to EFTA) to FO, communiqué issued after the EFTA ministerial meeting, 19 Feb. 1963. PREM11/4524, Geneva (Cohen, UK delegation to EFTA) to FO, report by Heath of EFTA ministerial meeting, 19 Feb. 1963. CAB134/1697, EA (63) 8th meeting, 'Economic Policy After Brussels', 20 Feb. 1963.
- (54) TNA PREM11/4524, record of conversation between Heath and the Swedish PM at FO, 5 Mar. 1963. PREM11/4524, record of conversation between Macmillan and the Swedish PM at Admiralty House, 5 Mar. 1963.
- (55) TNA FO371/173302/WP7/8, minute of Lord Hood's Committee on 28 Feb., 8 Mar. 1963.
- (56) TNA CAB134/1544, CMN(O) (63) 27, note by Trend, 'Dissolution of the Committee', 4 Mar. CAB134/1775, EER (63) 1, note by Trend, 'Composition and terms of reference', 4 Mar. 1963. CAB134/1775, EER (63) 1st meeting, 'Future Relations with the EEC', 5 Mar. 1963. CAB134/1888, ES(G) (63) 7, note by the Secretaries (covering the memo. by EER Committee), 'Future Economic Relations with the EEC', 8 Mar. 1963.
- (57) TNA FO371/171464/M10920/71 (B), 'record of a meeting held in the Federal German Ministry of Foreign Affairs', 28 Feb. 1963. PREM11/4524, Bonn (Roberts) to FO, 1, 4 Mar. 1963.
- (58) TNA FO371/171464/M10920/71 (B), 'record of a meeting held in the Federal German Ministry of Foreign Affairs', 28 Feb. 1963. PREM11/4524, Bonn (Roberts) to FO, report of Anglo-German Economic Committee from Reilly and France, 1 Mar. 1963. PREM11/4524, Bonn (Roberts) to FO, meeting with Lahr, 4 Mar. 1963. FO371/171463/M10920/54 (A), Bonn (Roberts) to FO, 'Policy towards Europe', 28 Feb. 1963. FO371/171463/M10920/54, FO to Bonn, 'Policy towards Europe', 28 Feb. 1963. FO371/171464/M10920/62, Bonn (Roberts) to FO, UK and the Common Market, 1 Mar. 1963. FO371/173302/WP7/8(D), minute of Lord Hood's Committee on 14 Feb. 1963. FO371/173343/WU1074/75, minute by Keeble, 'Consultative Association with the EEC', 4 Mar. 1963. FO371/173343/WU1074/75, minutes by Reilly and Caccia on Keeble's minute above, 5 Mar. 1963.

第一次 EEC 加盟申請の失敗とイギリスの対ヨーロッパ政策再検討過程

- (59) TNA T312/1004, Keeble to Owen, enclosing a memo. on 'UK/EEC Council of Association' as requested by Heath, 20 Mar. 1963. T312/1004, note by Lucas for Widdup and Owen, 'Council of Association in EEC and Euratom terms', 22 Mar. 1963. FO371/171464/M10920/73, Brussels (Galsworthy, UK delegation to Brussels) to FO, 26 Mar. 1963. FO371/171464/M10920/73 (A), minute by Keeble, 'ECSC type association with the EEC', 27 Mar. 1963. T312/1004, Widdup to Keeble, 27 Mar. 1963. FO371/171464/M10920/73, FO to UK delegation to Brussels, 30 Mar. 1963. FO371/171464/M10920/75, FO to Bonn, 'consultative arrangement between the UK and the EEC', 3 Apr. 1963.
- (60) TNA PREM11/4220, Bonn (Roberts) to FO, 'British Policy in Europe', 28 Feb. 1963. PREM11/4810, Bonn (Roberts) to FO, 'Franco-German Treaty', 3 Mar. 1963.
- (61) TNA FO371/169123/CF1051/33, Paris (Dixon) to Caccia, 5 Mar. 1963, enclosing the record of his conversation with French Ambassador to UK in Paris on 2 Mar. 1963. FO371/169123/CF1051/33 (A), Macmillan to Home, 10 Mar. 1963. PREM11/4811, Paris (Dixon) to Home, 'General de Gaulle and Britain's future', 14 Mar. 1963. FO371/169123/CF1051/25, minute by Ledwidge covering Paris (Dixon) to Home on 14 Mar. 1963, 20 Mar. 1963. FO371/169123/CF1051/24 (A), M. D. Butler (UK Embassy, Paris) to Young (Central dept., FO), 21 Mar. 1963.
- (62) TNA PREM11/4220, brief by Trend for Macmillan on Ministerial meeting, enclosing summary of a memo. by Heath, 'Future Policy in Europe', 1 Mar. 1963. FO371/173302/WP7/16/G (A), minute by Barnes, 'Future Policy in Europe', enclosing draft minute for Macmillan from Heath, 28 Feb. 1963 and minute by Scott, 4 Mar. 1963. CAB130/189, Post Brussels Steering Group, GEN. 786/1st meeting, 'Future Policy in Europe', 5 Mar. 1963.
- (63) TNA FO371/173344/WU1074/94, minute by Barnes for Wiggin, 'Lord Privy Seal's meeting with M. Spaak and Dr. Luns, March 6', enclosing draft speaking note for Heath, 1 Mar. 1963. FO371/171464/M10920/68, Brussels (Nicholls) to FO, message from Heath, 6 Mar. 1963. FO371/173343/WU1074/66, Brussels (Nicholls) to FO, 7 Mar. 1963. See also, FO371/173343/WU1074/68, Nicholls to Reilly, enclosing the draft record of talk between Heath, Spaak and Fayat before the dinner with Luns on 6 Mar. 1963. T312/1003, UK Embassy, Brussels to

論 説

- Reilly, enclosing Belgian record of talk between Heath, Luns and Spaak on 6 Mar. 1963, 8 Mar. 1963. 「共通の目的と意図」宣言草案は結局提示されなかった。TNA FO371/173302/WP7/15/G, minute by Scott, 'Future Policy in Europe', 4 Mar. 1963, covering the letter from Shannon (CRO) of 1 Mar. 1963 on Annex C to PB(63) 2, 'Draft Declaration of Common Purpose and Intent'.
- (64) TNA T312/1003, record of conversation between Heath and the Italian Ambassador, 7 Mar. 1963. FO371/173343/WU1074/69, Buxton to Booth (UK Embassy, Rome), 8 Mar. 1963. FO371/171464/M10920/68, minute by Jackling for Wiggin, 7 Mar. 1963. FO371/173343/WU1074/67, Bonn (Roberts) to FO, WEU and NATO meetings, 7 Mar. 1963. FO371/173343/WU1074/67 (A), Bonn (Roberts) to FO, WEU and NATO meetings, 7 Mar. 1963. FO371/173343/WU1074/67, FO to Paris, on Nicholls' and Roberts' telegrams above, 7 Mar. 1963.
- (65) TNA T312/1004, Home to Dixon, 'Future Policy towards Europe', enclosing a record of conference of UK representatives held in FO on 11 Mar. 1963., 25 Mar. 1963.
- (66) Ibid.
- (67) Ibid.
- (68) Ibid.
- (69) Ibid.
- (70) Ibid.
- (71) Ibid.
- (72) TNA FO371/173302/WP7/8(I), minute of Lord Hood's Committee on 13 Mar. 1963.
- (73) TNA FO371/173343/WU1074/70 (A), Paris (Dixon) to FO, on French attitude towards the ministerial meeting of WEU, 11 Mar. 1963. FO371/173343/WU1074/71, Bonn (Roberts) to FO, WEU Ministerial meeting, meeting with the French Ambassador, 12 Mar. 1963. PREM11/4524, Brussels (Tandy, UK delegation to the European Communities) to FO, the French attitude to the Kennedy Round, 12 Mar. 1963. FO371/173343/WU1074/76 (A), Paris (Dixon) to FO, 'NATO and WEU Ministerial meeting', 15 Mar. 1963. FO371/173343/WU1074/76 (B), Dixon to Hood, enclosing the record of M. D. Butler (UK Embassy, Paris)'s conversation with Laloy of French Foreign Ministry on NATO/WEU meeting

- and Anglo-French relations, 15 Mar. 1963.
- (74) TNA PREM11/4735, FO to Bonn, 'meeting of WEU', 16 Mar. 1963. PREM11/4735, FO to Bonn, 'Meeting of WEU', 16 Mar. 1963.
- (75) TNA PREM11/4735, FO to Bonn, message from Heath to Roberts, 'WEU meeting', 16 Mar. 1963. PREM11/4735, Bonn (Roberts) to FO, 'Ministerial Meeting of WEU', 18 Mar. 1963.
- (76) TNA PREM11/4524, FO to Washington, message from Kennedy to Macmillan, 22 Feb. 1963. PREM11/4220, FO to Washington, 'Future Policy towards Europe', 27 Feb. 1963. FO371/173302/WP7/10, minute by Hood for Caccia and Heath covering a telegram to Washington, 26 Feb. 1963. FO371/173302/WP7/10, FO to Washington, 'Future Policy towards Europe', 28 Feb. 1963. FO371/171463/M10920/55, FO to Washington, summary of UK policy on Europe, 28 Feb. 1963. FO371/173302/WP7/11, Washington (Ormsby Gore) to FO, 'Future Policy towards Europe', 1 Mar. 1963. FO371/173302/WP7/18, minute by Barnes for Hood, enclosing letters from Thomson (UK Embassy, Washington) to Barnes of 1 Mar. 1963 and 4 Mar. 1963, 4 Mar. 1963. PREM11/4810, summary record of conversation at Admiralty House between Macmillan, Home and Bruce, 4 Mar. 1963. PREM11/4735, summary record of a conversation between Macmillan, Home and Bruce at Admiralty House on 4 Mar. 1963. PREM11/4524, summary record of a conversation at Admiralty House between Macmillan, Home and Bruce, 4 Mar. 1963. PREM11/4220, FO to Washington, message from Macmillan to Kennedy, 8 Mar. 1963.
- (77) TNA CAB129/112, C (63) 44, memo. by Home, 'NATO Nuclear Force and European Policy', 11 Mar. 1963.
- (78) Ibid.
- (79) TNA CAB128/37, CC(63) 16, '4. NATO: Council Meeting', 14 March 1963.
- (80) TNA CAB128/37, CC(63) 18, '3. The North Atlantic Alliance', 25 March 1963.
- (81) Ibid. MLF 問題へのイギリスの対応については Saki Dockrill, *Britain's Retreat from East of Suez: the Choice between Europe and the World?* (Basingstoke: Palgrave, 2002), pp. 29-31, 59-60. John Young, 'Killing the MLF? The Wilson Government and Nuclear Sharing in Europe, 1964-66', *Diplomacy & Statecraft*, 14: 2 (2003), pp. 295-324. 芝崎佑典「多角的核戦力 (MLF) 構想とウィルソン政

論 説

権の外交政策, 1964年」東京大学大学院総合文化研究科紀要: DESK 研究紀要『ヨーロッパ研究』第3号(2003), pp. 63-77 も参照。

- 82) TNA FO371/171464/M10920/70G(B), minute by Barclay for Reilly on ES(G) (63) 7, 12 Mar. 1963. FO371/171464/M10920/70G(C), minute by Keeble for Reilly on minute by Barclay for Reilly on ES(G) (63) 7, 'Future Economic Relations with the European Economic Community', 13 Mar. 1963. T312/1003, Wid-dup to Roll and Armstrong, brief for the Chairman on ES(G) (63) 7, 'Future Economic Relations with the European Economic Community', 13 Mar. 1963. CAB134/1887, ES(G) (63) 3rd meeting, Future Economic Relations with the EEC, 14 Mar. 1963. CAB134/1888, ES(G) (63) 7, note by the Secretaries covering the memo. by EER Committee, 'Future Economic Relations with the EEC', 8 Mar. 1963.
- 83) TNA CAB134/2392, PB(63) 4, report by the Economic Steering (General) Committee, 'Future Economic Relations with the European Economic Community', 18 Mar. 1963.
- 84) Ibid.
- 85) Ibid.
- 86) Ibid.
- 87) TNA CAB134/2392, PB(63) 2nd meeting, 20 Mar. 1963.
- 88) Ibid.
- 89) TNA PREM11/5153, Maudling to Erroll, 19 Feb. 1963. PREM11/5153, Heath to Maudling, 28 Feb. 1963. PREM11/5153, Maudling to Heath, 1 Mar. 1963. PREM11/5153, Erroll to Maudling, 1 Mar. 1963.
- 90) TNA CAB134/1775, EER(63) 1st meeting, 3. Future Relations with the Commonwealth, 5 Mar. 1963 CAB134/1775, EER(63) 2nd meeting, 3. Future Relations with the Commonwealth, 7 Mar. 1963.
- 91) TNA PREM11/5153, Duke of Devonshire (Minister of State, CRO) to Maudling, 7 Mar. 1963. PREM11/5153, Canberra to CRO, message from Menzies to Macmillan. 9 Mar. 1963. PREM11/5153, CRO to Canberra, message from Macmillan to Menzies, 9 Mar. 1963.
- 92) TNACAB134/1775, EER(63) 6, memo. by BT, Britain's Commercial Relations with the Commonwealth, 11 Mar. 1963. CAB134/1888, ES(G) (63) 8, memo. by

第一次 EEC 加盟申請の失敗とイギリスの対ヨーロッパ政策再検討過程

- BT, Britain's Commercial Relations with the Commonwealth, 11 Mar. 1963. CAB134/1775, EER (63) 7, revised memo. by BT, The Possibility of Trade Negotiations with Commonwealth Countries, 13 Mar. 1963. CAB134/1775, EER (63) 13, note by BT, Anglo-Australian Trade Agreement, 13 Mar. 1963. CAB134/1888, ES(G) (63) 9, The Possibility of Trade negotiations with Commonwealth Countries, 13 Mar. 1963.
- (93) TNA CAB134/1776, EER (63) 16, note by CRO, Future British Policy towards the Commonwealth and the GATT, 14 Mar. 1963. CAB134/1775, EER (63) 3rd meeting, Anglo-Australian Trade Agreement, 15 Mar. 1963. CAB134/1775, EER (63) 3rd meeting, Anglo-Australian Trade Agreement, 15 Mar. 1963. PREM11/5153, CRO to Canberra, message from Macmillan to Menzies, 22 Mar. 1963. CAB134/1887, ES(G) (63) 5th meeting, Future Commercial Relations with Commonwealth, 25 Mar. 1963.